

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木1/木4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	日本語 (Advanced Japanese )		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 229 番教室	
対象学生(クラス等) 留学生	科目分類 留学生用科目		
<b>担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー</b> 担当教員:高野泰邦 /Eメールアドレス:ytakano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:留学生センター /オフィスアワー:木曜日 12:50 ~ 13:50			
担当教員(オムニバス科目等)			
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> 授業のねらい:日本、あるいは、日本人に関するさまざまな文章を素材に、大学生生活に必要な日本語の総合的な技能(読む力、考える力、調べる力、書く力、話す[発表する]力)の向上を目指す。  授業方法:学習目標が具体的に理解できるように以下のような方法で各授業を展開する。テーマについて背景となる情報を提供する。難解語句などの説明をする。各学生に音読をさせ、その部分の要旨を述べさせる。必要があると判断した場合は質問等をして理解しているかどうかを確認する。テーマ全体について感想等を述べさせる。なお、発表のための準備として、テーマの決定、作文の指導・添削、発表の練習をし、発表をする。  授業到達目標:論理的に構成された文章が読める。論理的に考えることができる。あるテーマについて自分で調べることができる。あるテーマについて論理的に書くことができる。あるテーマについてまとまった考えを発表することができる。他人の意見を聞いてそれについて適切に応えることができる。			
<b>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 授業内容(概要) 日本、あるいは、日本人に関するさまざまな文章を読み、日本語・日本文化についての理解を深めるとともに、それらについて学習者各自が論理的に組み立てた考えを発表する機会を提供することにより、学習者の日本語の表現能力の向上を図る。  各回2コマ  第1回 オリエンテーション / 外国語での会話 第2回 留学生生活を支えたもの 第3回 日本の世界文化遺産 第4回 日本人の心 第5回 土儀の「女人禁制」維持は妥当 第6回 土儀での表彰は「公務の遂行」 第7回 改革はばむ「組織の論理」 第8回 資格を取るまえに生き方自問 第9回 無数の智慧を吸い上げ、生かす 第10回 「影」を恐れず「光」へ踏み出す 第11回 「辞表を胸に、仕事に邁進せよ」 第12回 表現演習 第13回 表現演習 第14回 発表・質疑応答 第15回 発表・質疑応答 / 学生による授業評価			
キーワード	読む、考える、調べる、書く、話す、発表する		
教科書・教材・参考書	新聞記事、日本語教科書など (教員が準備します)		
成績評価の方法・基準等	予習15%、授業への参加度30%、作文25%、発表30%を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	上級日本語		
備考(準備学習等)			